

JAIST iMOST

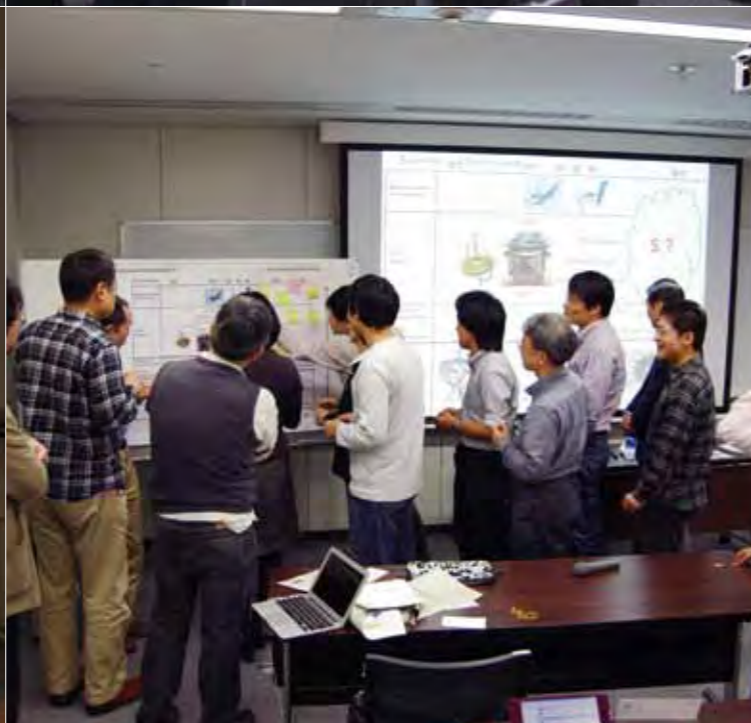
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学 博士前期課程
技術・サービス経営コース特別選抜

科学技術とサービスの融合で
イノベーションをめざす。



2014年度入学案内

2014



JAIST iMOST

幅広い各層からの社会人が集まり 議論し互いに高め合って イノベーション創出を推進する人材を育成する

1990年代初頭のバブル崩壊後20年以上が経過、人口減少が始まった日本がより豊かな社会を目指すにはイノベーションを実現して付加価値を生み出し世界に貢献していくしかありません。技術経営 (MOT: Management of Technology) が注目されその大学院教育プログラムとしてJAIST MOTコースが設置されたのは2003年10月です。以来、その活動の中でサービス経営の重要性をいち早く認識、日本初の科目創設に続きコース設置を経てイノベーション経営を目指すiMOSTコース (iMOST: Innovation Management of Service and Technology: 技術・サービス経営コース) に進化させてきました。そして設立以来、次の特徴を追求して140名以上の有為な人材を世に送り出してきました。

- ① 知識科学に基づくイノベーションマネジメント
- ② 理論と実践の融合
- ③ 討論重視のインタラクティブ講義
- ④ 少人数で家族的・自由闊達に意見交換できる"知創場"プラットフォーム
- ⑤ 内部・外部から豊富な一流講師陣による教員集団指導体制
- ⑥ 産学連携によるアクションリサーチ
- ⑦ 幅広い業種・職種・年齢層の学生が年齢差を気にせずフラットな関係で議論
- ⑧ 国際的連携によるプログラム推進
(ケンブリッジ大学CTMとの連携講座、スタンフォード大学教員やGATIC枠組みでのノースウェスタン大学・スイス連邦工科大学教員との連携等)
- ⑨ 学会活動の奨励/サポートと後期課程への進学ルートの用意
(研究・技術計画学会、日本MOT学会、PICMET、IEEE TMC、サービス学会等の学会活動と連動)
- ⑩ 修了後も在学中に築いたネットワーク資産の増大を支援する仕組みとカルチャー

今、東京の品川という羽田国際空港に最も近いビジネスセンターに拠点を構えて、欧米とアジア双方とのリンクも視野にグローバル視点のコースへと更なる進化を目指すJAISTのイノベーションコミュニティに皆様も是非参加して御自身の価値を高めてください。お待ちしております。

JAIST iMOST

JAIST iMOSTは、「イノベーションの先導者」としての、
あなたのスタートラインになる。

募集対象者

JAIST iMOSTの出願要件は以下の要件をすべて満たす方です。

- ・大学卒業者およびそれと同等以上の方
- ・社会人として3年以上の社会経験のある方（専門分野、職種、年齢は問いません）

募集人員

知識科学研究科（博士前期課程）iMOSTコース [技術経営（MOT）・サービス経営（MOS）・医療サービスサイエンス（MSS）]	25名
情報科学研究科（博士前期課程）iMOSTコース [サービス経営（MOS）]	5名

授与学位

所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた論文を提出し、その審査に合格した場合、所属する研究科の学位（下表）を授与します。それとともに「技術・サービス経営（iMOST）コース」の修了証を授与します。

知識科学研究科（博士前期課程）iMOSTコース	修士（知識科学）
情報科学研究科（博士前期課程）iMOSTコース	修士（情報科学）

標準修業年限

博士前期課程2年（長期履修可）

修了要件

本コースの修了には、主テーマ研究（8単位、修士論文にかかわる研究活動）、副テーマ研究（2単位）の他、各研究科で定められた科目履修指針に従い、10科目（20単位）を修得します。

【知識科学研究科の科目修得指針】 修得すべき10科目20単位について、所属する分野（技術経営（MOT）、サービス経営（MOS）、医療サービスサイエンス（MSS））で要件が異なり、それぞれ以下の要件を満たす必要があります。

- 技術経営（MOT）：技術経営中核講義から6科目12単位以上、知識科学中核講義から2科目4単位以上を含むこと。
- サービス経営（MOS）：サービス経営中核講義から4科目8単位以上、知識科学中核講義および技術経営中核講義から4科目8単位以上を含むこと。
- 医療サービスサイエンス（MSS）：医療サービスサイエンス中核講義から2科目4単位以上、サービス経営中核講義から2科目4単位以上、知識科学中核講義および技術経営中核講義から4科目8単位以上を含むこと。

【情報科学研究科の科目修得指針】

修得すべき10科目20単位について、以下の要件を全て満たす必要があります。

- ① 研究科専門科目から8科目（16単位）以上を含むこと。
- ② 導入講義を除く研究科専門科目から、4領域5科目（10単位）以上を含むこと。
- ③ 技術・サービス経営コース専門講義科目から4科目（8単位）以上を含むこと。

授業料

JAIST iMOSTに入学される方は下記の入学料および授業料の納入が必要となります。

入学料	282,000円	授業料	267,900円（半期分）
-----	----------	-----	---------------

※在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。平成26年4月に入学される方の入学料および授業料の納入額については、変更することがあります。

JAIST iMOSTに集う。



大西 俊暢

Toshinobu Onishi

JAISTのMOTコースに通学してから、私は多面的に物事を考えるようになり、多くのことに興味が湧くようになりました。

その理由の1つは、他の人の意見や身の回りに起こったことを異なる視点で解釈できるようになったことにあると思います。MOTコースには、問題意識が高く、様々な職種、立場、幅広い年齢層の人たちがいるので、異なる立場や視点から意見を聞くことができ、さらにその意見を理解できるまで議論をすることができます。

第二の理由は、吸収した新しい知識を活用して、物事を論理的に説明できるよ

うになったと、実感できたことです。これは、MOTコースの講義や修士論文の執筆により、このスキルを習得できたと思います。MOTコースには、マネジメントを多面的に捉えられるような講義が多く、知識を系統的に学ぶことができます。そのため、今までの自分のマネジメントの経験を学問を通して系統的に整理することによって、マネジメントの知識の厚みが増すことができました。また、先生方から頂く貴重なアドバイスによって、論理的な思考の訓練を何度も繰り返して、修士論文をまとめる過程が、私の思考法を高い次

元に押し上げてくれたと実感しています。

第三の理由は、MOTコースを修了した後も先生や修了生のネットワークを通じて、情報交換や勉強会などの活動を継続できることです。私も現在、修了生と共に定期的にプロジェクトマネジメントの勉強会を開いたり、研究室のゼミに参加しています。

このようにMOTコースで学んだことを私は、「知行合一」を目指してマネジメントの現場で実践していますが、今まで学んだことでは十分ではないと実感しています。

私は、今もこれからもマネジメントを学び続けていきます。



佐藤 俊江

Toshie Sato

目の前の業務に追われる毎日を通りながら、日常の経験を次ぎのステップに生かすことができない不安と焦りを感じていました。そんなときに、友人の勧めもあり、「知識」を学問とするJAISTのiMOST(当時MOT)コースで学ぶことを決意しました。

東京サテライトキャンパスは1週間の集中講義(平日の夜間及び土曜日)が基本となっています。仕事の調整がしやすく、とても学びやすい講義スケジュールでし

た。講義での議論、グループワーク、プレゼンに初めは戸惑いを感じましたが、自分の日々の成長を実感しました。また、バックグラウンドが異なる方々との討議やグループワークは、とても刺激的で興味深いものでした。社会人コースの醍醐味だと思います。

大学院生活で最も苦労したことは、修士論文でした。限られた時間の中でどのように研究を進めていけばよいのか、焦

り、迷い、戸惑いがありました。主指導教授のご指導、個別ゼミを通しての多くの先生方からのアドバイス、仲間の支えがあり、無事に修了することができました。皆さんの心のあたたかさに感謝しています。

JAISTでの学びと出会いは私の人生の財産です。修了後もオープンセミナーやゼミを通して学び、皆さんとのつながりを大切にしていきたいと思っています。



木村 富也

Tomiya Kimura

私は自動車関連メーカーの工場で生産技術に携わっています。近年、苦境に立たされている日本の製造業は、打開策もないまま本当に空洞化してしまうのだろうか、と不安に思っていました。その状況に対して私は、新聞や雑誌からの情報を切り売りしているだけで、自分のまとまった考えがなく、焦っていました。そこで、iMOSTコースに入学し、今まで自分が経験したことと新たな知識を融合して、自分なりに考えをまとめようと考えました。

新たな知識を得たいという私の思い通りに、入学当初から刺激に溢れた講義の

連続で、自分の経験だけでは解答が出せなかった問題に対して、新たな知識と融合することで、方策への様々なアイデアが見つかりました。講義は、平日夜と土曜日昼間の6日間で1科目終わるので集中して学べる利点がある反面、平日は通勤の疲れと昼休み・深夜の予習復習でハードでした。しかし、刺激的な講義はそれを乗り越える力を与えてくれました。

やがて、主指導教員のご指導の下で修士論文研究が始まり、今までの講義で学んだことを活かしながら、入学当初のテーマに本格的に取り組むことになりま

した。平日は仕事後に論文等を読み漁り、論文原稿を書いて、週末は主指導教員とのディスカッションというスケジュールをこなしながら、修士論文作成を進めていきました。その論文の進捗を個別ゼミで複数教員に報告し指導していただくという本場に手厚い指導で、論文を書き上げることができました。おかげさまで、修士論文の内容は自分が納得のいくものになりました。

このJAISTでの経験と学んだことは、今後の自分にとって大きな知的資産になると思います。



長尾 慎太郎

Shintaro Nagao

私は金融機関でヘッジファンドや非伝統的な資産クラスといった代替投資の領域を中心に資産運用の仕事をしてきました。以前に別の大学院で文化科学を専攻し、専門外の分野を系統的に学ぶことの楽しさや意義を実感したことから、iMOSTコースへ入りました。JAISTではグループワークや事例紹介を通して、知識科学に関する理論や技術をその日からすぐに使える実践的な形で学びます。取り上げられるケースのほとんどはテクノロジー関連の業界に題材をとっていますが、講義に参加するうちに、現在金融機関が直面

している懸念の多くは、製造業やIT関連企業がかつてチャレンジし既に解決済の問題であることに私は気づきました。

また、個人的な課題である資産運用の世界におけるイノベーションや金融マーケットのダイナミクスに関して先生方にご意見をお伺いするたびに、いつも極めて的確な回答が返ってくることに驚きました。ファイナンスの方法論では解が出ない難問が、知識科学の知見やフレームワークによってきれいに構造化され仔細に説明される様子を見ると、まるで金鉱脈を掘り当てたように得た気分になり

ます。さらに、講義やゼミ等での異業種の学生同士の交流は非常に愉快かつエキサイティングで、まさしく「弱い紐帯の強み」を実感します。

このように、研究活動の場として知識科学研究科を選んだのは私にとって大正解でした。現在の東京サテライトキャンパスの社会人学生はエンジニアの方が多いのですが、私は幅広い分野の職業人にiMOSTコースをお勧めします。これまで知識科学になじみのない方であればあるほど、そのパラダイムの先進性や「知識創造」の威力をより強く体験することになるでしょう。

JAISTの叡智を「イノベーション」に結集させる

—知識科学に基づく技術・サービス経営者をめざす—

北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)は、豊かな学問的環境を創出し、科学技術の分野で世界最高水準の高等教育研究を行うことを目指している国立大学法人です。

JAISTは知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスの3分野で研究科を有しています。石川県本校キャンパスを中心として、国際的にトップレベルの大学院を目指しています。東京ではサテライトキャンパスを設置し、社会人を対象とした教育プログラムを展開しています。

科学技術創造立国を目指す日本では、先端科学技術を活用してイノベーションを創出し、新産業を創生することが求められています。これを担う人材として、科学者、技術者とともに優れたマネジャー・経営者を育成することが国際競争力強化の視点から重要と認識されてきています。こうした認識に立脚した行動の一環として、JAISTでは平成15年10月、技術経営(MOT: Management of Technology)コースを東京サテライトキャンパスに開講しました。さらに、平成21年10月には、MOS(Management of Service、サービス経営)コースも開講し、イノベーション・マネジメント教育のエクセレントモデルになるべく、努力してまいりました。

この在学生・修了生ネットワークに積極的に参加されてイノベーションを切り拓いて戴きたいと願っています。

平成23年10月には、これまでのイノベーション・マネジメント教育として、より一層「イノベーション創出に向けた、教育内容の強化」を図り、JAISTの知識資源をイノベーション・マネジメント教育に結集させるため、「知識科学と情報科学を基盤としたイノベーション・マネジメント教

育プログラム」JAIST iMOSTを開講いたしました。

社会を根底から変革するイノベーションには、「科学技術」の革新性ばかりではなく、科学技術を社会システムの中で十分に機能させる「サービス」を創出しなければいけません。さらに、新しいコンセプトは、人々の「価値」を魅了するものでなければなりません。

JAIST iMOSTは、知識科学と情報科学を基盤としたことで、本質的なイノベーションを創出できる人材育成に最適な教育資源をみなさまに提供する、イノベーション人材育成の先進的な教育研究プログラムとなっています。

JAIST iMOSTは、経験豊富な社会人を対象にしたもので、理論と実践の融合を基本方針としています。日本の文化や風土に合い、なおかつ国際的にも通用するイノベーター育成をめざした挑戦をしています。

科学技術、事業、市場の「知の創造」で変化の先頭に立つリーダーを育成することを通じて、文化的で豊かな社会の実現への貢献を図っていきたくと考えています。

2014年4月から新たに学長に就任しました。前学長時代に発展したJAIST iMOSTの考え方や特徴を今後も更に発揮できるよう前進させていきたいと思っています。



浅野 哲夫 [学長]

工学博士(大阪大学)

専門分野: アルゴリズム, 計算幾何学, 組み合わせ最適化

技術経営中核講義

(14科目)

- イノベーションマネジメント概論
- 研究開発マネジメント論
- 経営戦略論
- 企業科学 (Enterprise Science)
- イノベーション実践論
- 戦略ロードマッピング論 (Strategic Roadmapping)
- オープンイノベーション論
- 技術標準化論
- 技術マネジメント・リーダーシップ実践論
- ベンチャー・ビジネス実践論
- MOT改革実践論
- 知的財産マネジメント論
- プロジェクト・マネジメント実践論・応用
- JAIST-iMOSTオープンセミナー

サービス経営中核講義

(10科目)

- サービスイノベーション論
- 製造業のサービス化論
- サービス・マネジメント
- サービス価値創造論
- デザイン戦略論 (分野により単位取得扱いが異なる)
- ビジネスとエスノグラフィ (分野により単位取得扱いが異なる)
- マーケティング論 (分野により単位取得扱いが異なる)
- 情報産業サービス化論
- ITサービスアーキテクチャ論
- インターネットサービスシステム論

知識科学中核講義

(6科目)

- 知識経営論
- 比較知識制度論
- 社会科学方法論
- 知識創造論
- 研究・イノベーション政策論
- システム科学方法論

技術経営・知識科学一般講義

(5科目)

- 次世代技術イノベーション・マネジメント (Next Generation Technology and Innovation Management)
- 科学哲学・科学史
- 実践的社会調査法
- 企業会計論
- プロジェクト・マネジメント実践論・基礎

医療サービスサイエンス中核講義

(6科目)

- 医療サービス知識経営論
- 医療・保健サービス基礎
- 医療サービスサイエンス概論I
- 医療サービスサイエンス概論II
- 先端医療サービス知識科学特論
- 医療サービス情報経営論

イノベーションマネジメント概論

内平 直志

企業競争力にとってイノベーションがその必須条件との認識は久しいが、その概念は広範で全体像の理解を難しくしている。本科目では、過去の事例を参考にしながらイノベーションのモデルと理論を理解し、今後のイノベーションマネジメントの考え方を議論する。

そのためにイノベーションのモデルと理論を概観し、企業発展と持続に必須のイノベーション創出のマネジメントについて事例を用いて考察する。また、オープン・イノベーション、サービス・イノベーション、ソーシャル・イノベーションなどの最新の動向を紹介するとともに、近年注目を集めているデザイン&システム思考でイノベーションを生み出す手法についてもグループワーク形式で学習する。

本科目ではこうした議論を通じてJAIST-iMOSTコースの導入講義としての役割も果たす。

研究開発マネジメント論

小坂 満隆 | 藪谷 隆

日本産業の競争力強化が求められている。そのためには、たゆまないイノベーションが求められるが、技術によって行うことがその重要な視点の一つである。そのための活動の源泉が研究開発である。本講義では、企業においてこの研究開発活動がいかにマネージされているか、そして今後されるべきかを論じ、産業競争力強化の考え方に結びつける。

研究開発マネジメントについて、技術経営の重要要素としての位置づけの中でその基本を理解する。その上で、現在の課題、イシューを議論し、今後の産業競争力の源泉としての研究開発マネジメント実践の考え方、手法を習得する。

経営戦略論

遠山 亮子

技術を考える上で、経営戦略上その技術がどういう意味を持つか、その技術を戦略的にどう展開していくかを考えることは不可欠である。本講義では、全社戦略、事業戦略、マーケティング戦略など、経営戦略の諸側面について、基本概念と手法を理論と実例から学ぶ。

企業科学 Enterprise Science

内平 直志 | Hugo Tschirky

The objectives of this course are the following: (1) to realize and confirm companies vital challenge in coping with technological change, (2) to understand technology -representing structured knowledge- being a basic entrepreneurial resource unit subject to active management, (3) to become aware of currently available management tools allowing increased "manageability of technology" as compared to the past, and (4) to acquire skills in identifying "Technology & Innovation Management" as being a systematic framework composed of concrete elements.

"Enterprise Science" is a state-of-the-art approach to managing innovationdriven companies. Enterprise Science closes the "technology gap" in existing text books and theories on general management. The lecture series is focused on concrete management challenges and solutions of companies which are facing the accelerated technology change. Numerous practical tools and concepts of technology & innovation management are explained and applied.

イノベーション実践論

丹羽 清

本講義の目的はイノベーションの基本コンセプトを把握し、その上で、イノベーションを実際に起こす際の主要問題とその対応の在り方を理解することにある。

教科書「イノベーション実践論」(丹羽清著、東大出版、2010)を用いてクラスでの議論を中心にして講義を進める。

(1) まず、イノベーションの基本思想を理解して、それらを実践する具体的方法を議論する。(2) ついで、企業でイノベーションを起こす際に必ず発生する既存事業部門と新規事業部門との軋轢を解決する方法を議論する。(3) さらに、企業内の複数事業部や関連企業群がいかにシナジー効果を発揮してイノベーションを起こすべきか、その具体的展開方法とマネジメント支援の在り方を議論する。(4) 最後に、全く新規なものを登場させる「革新的イノベーション」を実現するために、イノベーション部門とマーケティング部門の望ましい関係について議論する。

以上を踏まえて、(5) 受講生が現実を抱える各種課題に対して、その対処法を模索・構築する議論を行う。

戦略ロードマッピング論 Strategic Roadmapping

白肌 邦生 | Robert Phaal

The course will provide an overview of the strategic technology roadmapping approach, in terms of both concepts and practice. The goal is to provide participants with the knowledge to initiate roadmapping in their organisation.

The course covers both the concept and application of roadmapping, including frameworks, examples and cases, positioning roadmapping in the context of strategy and innovation. Practical activities provide participants with an opportunity to explore the practical application of the ideas.

オープンイノベーション論

長谷川 克也

従来、日本のハイテク産業のイノベーションは、自前主義を基本とする大企業を中心に進められてきたが、近年は、大企業と云えども自前主義だけでは様々な環境変化に対応することが難しく、産学間の連携やベンチャー企業との連携など、様々な形で社外で研究開発された技術を活用して新規事業を展開するオープンイノベーションが必須になっている。本科目では、イノベーションのオープン化の背景や必然性を理解するとともに、各種アライアンス、スピリアウト、

サービス経営中核講義

10科目

今のサービス価値の推移やサービスリスク回避を含むサービス価値創造の方式を学ぶ。

まずJAISTが取り組んだサービス・サイエンスの経緯を知識科学・技術経営の視点を交えて紹介し、企業ビジョンからサービスシステムに至るサービス価値を基軸としたサービス概念を理解する。そしてサービス価値創造をサービス価値推移の可視化とこれを担う人/組織やモノ/インフラを含めたサービスシステムの側面から理解する。

もてなしの文化的淵源（歴博研究者による）を含む旅館・ホテルサービス、ネット・ロボット技術を用いたサービス、およびIT企業の具体的事例を用いてサービス事業の成功要因および回避すべきサービスリスクや組織のコンプライアンスやマネジメントのあり方を修得する。さらに実習を通して学生みずからサービス価値創造に関するモデリング手法やリスク分析にも取組む。

デザイン戦略論

永井 由佳里

デザインがイノベーションの創出を誘発すると言われる。プロダクトの新しい意味を探すために有効とされるデザイン思考を体験的に理解し、人間中心デザインの観点から、新しいコミュニケーションやシステムの提案に結びつく構想力、企画力及びそのプレゼンテーション力を磨くことが期待される。そのためには、なぜ今デザインが重要かを考えることが最初のステップである。授業では、デザイン事例や関係する論文を踏まえ、デザインに啓発される新しい機能やサービスの構造を検討する。デザイン思考による創造課題を通じ、デザインによる知識創造の基本的なプロセスの構造を理解する。さらに、自己の視点から新しいデザインの基本プランを構想し、それによって何がどう変わるのかについて議論を行う。

ビジネスとエスノグラフィ

伊藤 泰信

今日、生活者（消費者）の価値観や嗜好は多様化・複雑化し、マーケティング・開発者の思いこみだけでサービスや製品を作ることの限界が言われ始めている。合理的な思考を持ち、言葉で自らの経験を説明しうる人々として生活者（消費者）をえてしまってきたこと、また、生活者の心、身体、それを取り巻く環境（社会・文化）は、個々に独立した事象として説明しうると考えられてきたことに、従来の市場調査やマーケティング活動における大きな誤りがあったのだと指摘する経営学者もいる。

この講義では、生活者（消費者）の活動、ひいては人間の活動というものを、トータル（全体論的）に捉える文化人類学の視角および調査手法（エスノグラフィ）をその基礎から学ぶ。そして、消費行動調査や業務改善、ユーザビリティ調査など、広義のビジネスに有用な視角や可能性（それらへの批判的な視角も含む）について検討する。受講者じしんが、ビジネスと人類学との架橋等について考え、積極的に議論する場としたい。

サービスイノベーション論

小坂 満隆|松橋 誠壽|西岡 由紀子

産業界、教育界でグローバルに進展を続けているサービスイノベーションについてその内容と方向性を理解し、サービスイノベーションを俯瞰できる技術の体系を習得させる。

グローバルなレベルでのサービスイノベーションの実例と方向性、サービス業の分類と特徴、サービスサイエンスと知識科学、情報科学の関連性、サービスモデル、ビジネスモデルなど、サービスに関する一般論の習得と最近の話題に関して学習する。

製造業のサービス化論

角 忠夫

日本の製造業は、20世紀の商品の品質と生産性から、21世紀に入り商品とサービスにより顧客にソリューションを提供することが求められている。本講座は製造業におけるビジネスモデルの変遷と、各モデルにおける代表的なケースを学ぶことを通じそれぞれのビジネスジャンルにおけるサービスビジネスへの展開力を構築することを目指す。

まず製造業の先行サービスビジネスモデルに注目し、(1) 建設機械、(2) エレベータ、(3) 計装・環境分野の第1線で活躍している外部講師からの講義と討議を通じ、サービスビジネスモデルの概念化と各種産業におけるビジネスモデル構築の処方箋の確立を目指す。

さらにサービスビジネスを取り巻く(1) コスト、価値並びにその対価との関係、(2) 生産性と品質、(3) 産業用ビッグデータの活用、(4) 究極にビジネスモデル第6次産業化、(5) サービスやソリューションの無形資産価値評価の確立等の諸問題を討議する。最後に全員にワークアサインメントを課し、発表と討議を行い、MOTクラスと企業とのブリッジを確かなものにする。

サービス・マネジメント

日高 一義|林 幸雄

サービス科学を学習・研究する上で基礎となる、サービスの経済学的な側面、マネジメント的な側面、および数理的な側面を体系的に教育する。

内容は以下のものを予定している。サービスの経済的・歴史的な位置づけ、サービスの本質、サービス戦略、サービス品質、サービス価値の定義と測定、サービス・プロセス、サービスのプロジェクト・マネジメント、サービスの国際化、需要予測や最適化などの関連する数理的技術、等。

サービス価値創造論

中村 孝太郎|香月 祥太郎

サービスの価値創造は、サービス企業により構想されサービスシステムを通して提案されるサービス価値を、顧客が利用して便益を享受・満足することにより達成される。専門領域横断的視点により古

とのディスカッションに応じつつ講義を進める。

MOT改革実践論

近藤 修司

本講義はMOTの視点で改革実践力の高い人材を育成することを狙いとする。技術経営の知識の浸透とともに、企業では技術経営の改革実践が求められている。本講義では技術経営改革の理念と実践体系を理解する。改革実践の3原則「自分ごと・4画面思考・改革の輪」にそって、改革実践提案書を作成し、自分を変えて周りを変えるMOT改革実践の人間力と技術力を習得する。北陸や石川県で展開している石川MOTシンジケート・のと七尾人間塾・能美改革実践塾・かが元気塾・はくさん元気塾・伝統工芸MOTなどの地域塾および企業塾での実践事例を通じて、MOT改革実践理論の理解を深める。学生は、自分のMOT改革実践テーマを宣言し、その実現のための改革実践提案書を作成することを通じて、改革実践能力の倍増を図る。

知的財産マネジメント論

外川 英明

- 知的財産制度全体の概要の解説。
- 技術保護の要となる特許法を検討。
- 技術保護のもう一方の要である営業秘密保護を検討。
- 意匠法・商標法を検討。
- 著作権法をコンピュータ・プログラム中心に検討。
- 上記1〜5.において企業の知的財産分野の今日的課題、すなわちインカートリッジ再生品訴訟、特許権侵害訴訟と無効の抗弁、従業員の職務発明における補償金問題、アジアにおける模倣品問題・技術流出問題、私的録音録画補償金問題、営業秘密の保護強化等の検討を通じて企業の知的財産マネジメントを理論面・実務面から考えていくこととする。

プロジェクト・マネジメント実践論・応用

田中 弘

本科目は応用プロジェクトマネジメント領域を扱う。学生はプロジェクトマネジメントに関する要諦理論の復習を行った後、日本発の「新版P2M プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック」と講師の40年にわたるグローバルプロジェクトマネジメント実践・普及・教育経験に基づいた、グランドデザインやイノベーションの仕組み創りを支援するプロジェクト&プログラムマネジメントの知識、その活用の基礎スキルを習得する。

関連知識に関するレクチャー、当日のレクチャーの主要トピックスに関するクラス討議または小演習、ならびに講師が用意するテンプレートに従ったプログラムマネジメントに関する総合演習で構成される。第15セッションでは講師による学生個々あるいはグループ（受講者数でいずれかを決定）の理解度面接テスト行う。

JAIST-iMOSTオープンセミナー

井川 康夫

技術経営・サービス経営などイノベーションマネジメントに日々携わっている企業の経営者や産官学各界のオピニオンリーダーによる技術及びサービス視点のイノベーションマネジメント最前線の実践事例、考え方、今後の方向などについての講演である。オムニバス形式で行う。

コーポレート・ベンチャー、産学連携など、既存企業における様々な形態でのオープンイノベーション手法を学び、さらに、オープンイノベーションが最も発達したシリコンバレーでの新技術、新規事業の創出メカニズムについても学ぶ。

技術標準化論

仲林 清

情報通信や電子・電機分野を中心に、技術標準化がビジネスの成否に大きく影響するようになってきた。技術標準化は、研究開発、製品企画設計からマーケティング戦略や他企業との連携戦略にまたがる広範な課題である。以上の背景をふまえ、本科目では、技術標準化戦略を考える上での基本知識の習得を目的とする。

まず、技術標準化活動の形態と必要性について述べ、次に、企業のビジネス戦略と標準化の関わり合い、技術開発・製品アーキテクチャと標準化の関わり合いについて述べる。さらに、情報通信分野を中心に近年の重要な標準化活動の事例を紹介する。知財と標準化、各国の動向などの関連項目にも触れ、最後に受講生による事例発表、討論を行う。

技術マネジメント・リーダーシップ実践論

角 忠夫

技術者または開発・研究者として企業に入社後5〜10年の実務経験を経て技術系管理者（課長、主任、グループリーダーなど）として活動を始めるに際し、具備すべき知識、実例、ノーハウ、思考法などを現場で即活用できるテキストを用い、この分野で長年実務経験を見識を有するインストラクターより直接伝授する。この講座を受講することにより新しい管理の世界での成功への勇気を駆り立てる。

すでに管理者や技術経営職についている人には、自分の管理行動のレビュー部下の指導育成の点検に極めて有意義な機会を提供する。

先ず企業からのMOTに対する期待と使命を明らかにし、その上でMOTを学ぶ受講生の企業におけるゴールを明示する。次に技術系管理能力開発論として、新任技術系管理者の必要事項、管理者への道、職務、組織化、計画と意思決定、管理機能等につき、事例、ケーススタデーを加えてマスターする。

更にインストラクターの製造業CEOの経験と実践を通じての技術系管理者のキャリアパスの展開と可能性、その過程で獲得すべき企業イノベーション、M&A、企業価値評価等に対する管理者としての行動理念やその実践などホットなケースの問題提起と徹底討議を行う。

最後にワークアサインメントを課し、全員発表並びに討議を行うことを通じ、MOTクラスと企業との「理論と実践」を確かなものにすることを意図している。

ベンチャー・ビジネス実践論

赤坂 洋一|和田 知久|赤羽 雄二

現代の産業技術の発展とベンチャー・ビジネスに関する社会的動向を理解し、さらに大学発ベンチャーとして研究成果の事業化に向けた展開や、起業、ベンチャー・ビジネス経営についての理解を深め、ベンチャーマインドの育成を目指す。

政策、経営、実務、イノベーションなどベンチャー・ビジネスの実践に必要な各種テーマについて、ベンチャー創出推進、大学発ベンチャーの設立、実践、研究成果の事業化、ベンチャーキャピタル等の現場に立つ産官学の各講師による系統的な講演を基調とし、受講者

知識科学中核講義

6科目

研究・イノベーション政策論

平澤 冷

知識論の立場から、研究・イノベーション政策の展開に資する「形成的」原理を講じる。

科学技術や研究開発というディシプリン・オリエンテイドな知識を、政策という価値支配的なコンテキストの中で展開する際に遭遇する様々な知的不整合の克服を意図し、そのために有効なアプローチについて知識論の立場から整理する。

- 科学技術が中心的に関与する、研究開発政策とイノベーション政策の現状について、主要国と対比させつつ我が国の状況を紹介する。
- 政策形成の実務に焦点を合わせ、分析的な思考にとどまることなく、形成的な目的に資することをめざす。分析のための知識、知ることを目的としたアプローチだけではなく、形成的ないし構築的知識、作り上げることや運用することを目的とした知的アプローチを対象とする。
- 新知識の形成だけでなく、むしろ既存知識の適切な運用を中心課題とする。
- 経営と政策、企業経営と公共経営のように、企業レベルでの知見と対比させつつ国レベルでの取り組みを紹介する。
- 戦略・計画、管理・支援、評価・見直しのような、マネジメント・サイクルの各ステージの中心的課題を公共経営の事例として取り上げる。

システム科学方法論

中森 義輝

システム科学の方法論といくつかのシステム技法を習得することにより、社会・経済・経営・自然・環境、あるいは知能・知識システムなど、それぞれの分野における各自の研究の進め方を探求する。

システム方法論の概要とシステム技法、創造的問題解決法、統計的手法、意思決定手法を扱う。

知識経営論

遠山 亮子

企業経営の知識創造パラダイムを理解する。

企業経営を知識という視点からとらえ、その獲得、創造、活用、蓄積といった諸側から論じ、新たな経営学の基礎理論と方法論を解説する。

比較知識制度論

永田 晃也

本講義では、技術知識の創造、活用、普及および蓄積に関連する諸制度をイノベーション・システムとして捉え、その特質を国際比較の観点から論じる。技術知識とイノベーション・システムの間には、密接な相互関係に基づく共進化のメカニズムが作用している。すなわち、技術知識はイノベーション・システムの影響を受けながら進化すると同時に、逆にシステム自体の革新に影響を及ぼす側面を有している。本講義の目的は、このようなメカニズムを通じて進化を遂げてきたイノベーション・システムの多様性を理解することにある。

企業・大学・研究機関等の組織レベル、産業レベルおよび国レベルでの諸制度の国際比較を試みる。また、ナショナル・システムの枠組みを超えた国際的な制度、ないし諸制度のグローバル化の動向に言及する。

社会科学方法論

梅本 勝博

社会科学的研究に必要な方法論の基本的な概念と技法の理解を目的とする。

社会科学の潮流、リサーチ・デザイン、データの収集・分析、論文執筆についての議論と並行して、研究計画書作成のシミュレーションをおこなう。統計分析の詳細には触れない。

知識創造論

國藤 進|山浦 晴男|有馬 淳|八木 龍平

知識創造の方法論を創造科学という観点から学ぶ。創造的問題解決における人間の思考プロセスは発散的思考、収束的思考、アイデア結晶化、アイデア評価・検証にあることに着目し、それらを促進する各種創造技法を学ぶ。次に各思考プロセスを支援する発想支援システムの現状を紹介し、ナレッジマネジメントの観点から、実際に現場の問題解決を行うにはどうすべきかを、ケーススタディから学ぶ。これらの学習を通じて、各自の所属する組織のMOTあるいはMOSを成功するには、如何にすべきかについて最終レポートの形態でプレゼンする。

知識創造、創造技法、発想支援ツール、W型問題解決学、KJ法、合意形成支援グループウェア、暗黙知支援システム、アウェアネス支援、ナレッジマネジメント支援,創造的思考プロセスなどを扱う。

ジネスの世界では、動向を理解するだけでは、サービスイノベーションを自ら創り出すことはできない。本講義では、クラウドサービスやソーシャルサービスなどのインターネットサービスシステムの最新技術や最新事例を概観後に、インターネットサービスビジネスを自ら創り出すための基礎知識の習得を目指す。技術標準化戦略・知的財産権管理、オープン技術管理、ソーシャルサービスビジネス化、サービスのプラットフォーム化などについて解説する。全体を通して、適宜、講義とグループワークを組み合わせる。

マーケティング論

山岡 隆志|白肌 邦生

マーケティングの本質と発想法に力点をおき、マーケティングを考えるときに重要となる「顧客視点」を持ってもらい、実業で使えるマーケティングを身につけることを目的とする。

マーケティングの基礎と考え方を理解してもらい、ミニケースを利用してアウトプットと議論を逐次行いながら、マーケッターに求められるスキルを身につけてもらうことを目指す。ケーススタディによる議論やグループワークによる発表、レポート提出などを織り交ぜて立体的な学習を取り入れる。

情報産業サービス化論

神田 陽治|赤津 雅晴|湯浦 克彦

情報産業のサービス化の最新動向と技術動向を理解し、情報産業のサービス化を自ら企画・実行する基礎知識とスキルを習得する。

情報産業は転換期を迎えており、ハードウェアやソフトウェアの製品販売で収益を上げられていた時代は終わり、サービスを中心に据えた事業構造への移行が急務である。この転換期を生き残るには、企業内に閉じた業務変革では不十分であり、情報産業全体や社会インフラに渡る事業変革にまで視点を広げることが必要である。本講義では、情報産業のサービス化の最新動向と技術動向を概観し、情報産業のサービス化や社会インフラのサービス化事例を解説する。加えて、情報産業のサービス化を自ら企画・実行できるように、企業活動に関する全体像をどう作り、企業向けITサービスの合意をどう形成し、その中で個別業務をどのように具体化していくかのスキルを伝授する。全体を通して、適宜、講義とグループワークを組み合わせる。

ITサービスアーキテクチャ論

松塚 貴英|小野 俊之

現在、企業のITシステムでは、ビジネスの変化に応じた高品質なサービスソリューションの迅速な構築・提供が求められている。そのために、企業システムを構築するためのアーキテクチャの変遷と、現在主流となっているサービス指向のシステム構築についての考え方や基礎知識・最新動向について修得する。

具体的には、企業システムのソフトウェアアーキテクチャ、基盤となるSOA、Webサービスやクラウドコンピューティング、Ajaxなどの技術などについて修得する。また、システム構築におけるソフトウェアプロセスや注意点について解説・議論する。個人実習およびグループワークを通して、実践的な考え方を身につける。

インターネットサービスシステム論

神田 陽治|高橋 浩|山上 俊彦

インターネットサービスシステムの最新動向・技術動向を理解する。加えて、インターネットサービスビジネスを自ら創り出すための基礎知識を習得する。

インターネットサービスとは、インターネットの技術を用いて、インターネット上に構築され、インターネットを介して提供されるサービスのことである。今やインターネットサービスを抜きにして、サービスのイノベーションを議論することはできない。インターネットサービスシステムの最新動向や技術動向を理解することは重要である。しかしながら、先行者のみが生き残れるとされるインターネットサービスビ

技術経営・知識科学一般講義

5科目

科学哲学・科学史

吉田 夏彦

科学の構造を哲学的な見地から考察することを通じて科学の発展を論ずる。

科学史の概略と論理学の初歩とについては講義で述べるが、共同討議を通じて哲学的な考察とはどういうものかを体得して貰うことにも重点を置く。科学と社会との関係についても論ずる。

実践的社会調査法

佐々木 康朗

社会科学的研究に必要な調査法の基本的な概念および分析方法について、「実践」に重きを置いて、実際に使えるスキルを身につけることを目的とする。

本講義は社会科学的研究に必要な、構想立案、調査実施、結果分析、分析報告書作成を軸に講義を行う。演習ではSPSSをはじめとした分析ソフトウェアの操作方法を学び実践的データ分析能力を養う。

企業会計論

山口 裕康

イノベーションによる技術の創造は、企業経営の実践の場で具体化され、企業価値の創出を通じて会計的にその成果が測定され、検証される必要がある。企業価値を構成する要因と枠組みを学習することにより、MOT改革を企業経営に訴求し、具体的なアウトプットを産出し、MOT普及に役立つようにする。

企業経営で直面する企業会計上の知識、具体的には財務会計・管理会計・企業財務のポイントを、事業開発プロジェクトの流れに沿って、体験学習的に習得する。

プロジェクト・マネジメント実践論・基礎

光藤 昭男

プロジェクトマネジメント（PM）の基本知識体系を学び理解し、事例研究をもとに業務への活用を目指す。プロジェクト及びプロジェクトマネジメント（PM）の基礎概念、PMを構成する個別マネジメント（スコープ、タイム、EVM、組織、リスク他）、PMの事例と応用などを学ぶ。

次世代技術イノベーション・マネジメント

Next Generation Technology and Innovation Management

白肌邦生 | David Probert

[先端講義科目]

The course covers current and developing ideas in the management of technology and innovation. The perspective adopted is that of the work of the Centre for Technology

Management at the University of Cambridge, while including ideas and concepts from other leading academic and practitioner sources. After an introduction to underpinning frameworks and conceptual models, the real world challenges in this area are explored. This leads to consideration of the practical activities and processes of technology management, and a unifying technology management framework which links these processes to the wider business processes.

The other major factor of importance to consider is the changing context over time, and this is reviewed in terms of the evolution of industry, technology and markets. The focus then shifts to the management of innovation. The theoretical definition of radical innovation and its management is supplemented by detailed case exploration drawn from recent research. An important aspect of such cases is the role of the Chief Technology Officer, and the match of this role to the changing company priorities is discussed. The seventh session looks to the future, in terms of exploring and evaluating early stage technology.

This draws on both established techniques and recent CTM research in the area of Value Roadmapping. The final session addresses a key consideration when planning for the future, the treatment of risk and uncertainty.

医療サービスサイエンス中核講義

6科目

医療サービス知識経営論

池田 満 | 小川 泰右 | 中村 孝太郎

本科目は、知の創造・共有・活用についての理論と実践である知識経営について、その基本、医療サービスの特性、医療知識経営の実践を理解し、実践に向けて動機付けることを目的とする。

内容としては、知識経営の定義、医療における知識経営の必要性、知識経営（ナレッジマネジメント）の基本的な概念・モデルと手法、メタ認知の視点から見た医療知識、医療サービスの特性、医療サービスにおける医療者と患者の関係、国内外における医療知識経営の実践、症例経営分析について講義し、グループディスカッションを各トピックの間に、そして最後に演習を行う。

医療・保健サービス基礎

佐藤 信紘 | 池田 満

医療および教育は、社会的公共財として水道や電気ガス供給と同様に、基本的人権に関わる問題である。日本国民の平均寿命や健康寿命は、国民の優れた知性と医療の発達、国民皆保険制度に支えられて世界でトップクラスを誇るが、昨今国家財政破綻の中で高齢社会を迎え、救急医療や産科小児科医療の破綻など医療危機を迎えつつある。

本講義では、国民一人一人が安心して健康的な生活を送るために、「健康」の本質的意義と「現代医療」の特徴を概説することによりその問題点を理解し、我が国の医療サービスの根幹は如何にあるべきか、を概括的に議論したい。

医療サービスサイエンス概論Ⅰ

池田 満 | 荒木 賢二 | 鈴木 斎王 | 香月 祥太郎

医療のサービスとしての諸相を解明するための知識科学について、基礎理論を俯瞰的に学び、研究事例を通じて理解を深め、研究計画の立案に必要な基礎的な能力を身につける。

サービスライフサイクルにおける知識循環のダイナミクス、特に、医学知識（専門知識）と患者知識（受容者の価値観）の相互作用を解明するための基礎として、医療サービスモデリング・医療情報学を中心に基礎理論を学ぶ。さらに、国内外の研究動向を概観したうえで、研究計画作成の演習を通じて医療サービスサイエンス研究の学術的特徴・意義を考察する。

医療サービスサイエンス概論Ⅱ

池田 満 | 橋田 浩一 | 佐藤 信紘 | 和泉 憲明

医療のサービスとしての諸相を解明するための知識科学について、基礎理論を俯瞰的に学び、研究事例を通じて理解を深め、研究計画の立案に必要な基礎的な能力を身につける。

医療サービスは、高度な専門知識・スキルを備えた多種多様な専門職の協働により提供され、その質が医学的な指標と患者の価値観に関わる指標の両面から評価され、その評価に基づいて持続的な改

善がなされる。このサービスライフサイクルにおける知識循環のダイナミクス、特に、医学知識（専門知識）と患者知識（受容者の価値観）の相互作用を解明するための基礎として、医療サービスモデリング・医療情報学を中心に基礎理論を学ぶ。

先端医療サービス知識科学特論

池田 満 | 梅本 勝博 | 橋田 浩一 | 佐藤 信紘 | 荒木 賢二 | 鈴木 斎王 |

溝口 理一郎 | 高木 理 | 小川 泰右

[先端講義科目]

医療サービスライフサイクルにおける知識循環の基盤を形成するための研究方法論を学び、北陸先端大・産業総合研究所・宮崎大学・順天堂大学で行われている研究事例を通じて、その理解を深める。

医療サービスを科学するための基礎として、知識メディア学・社会科学を基礎にした現象の観察手法・分析手法、概念モデリング・オントロジー工学、医療情報学、認知心理学、データ加工法を学ぶ。それを基礎として、医療サービスサイエンスにおける実践研究の目的・対象・アプローチ、残された課題について、先駆的な研究事例から学ぶとともに、グループワークを通じて理解を深める。さらに、その理解を出発点として、医療サービス知識科学の今後の展開について検討する。

医療サービス情報経営論

荒木 賢二 | 鈴木 斎王 | 池田 満

近年の医療機関におけるIT化の進展に伴い、医療情報学はより重要な役割を担うようになってきている。本講義では、医療情報の最新の動向を俯瞰するとともに、医療情報学を基礎として、科学的に根拠に基づく病院経営を実践するための方法論を学ぶ。

医療サービスサイエンスにおける医療IT化の意義、医療サービスサイエンスに関連する電子カルテの機能（クリニカルパス、地域連携、経営分析）医療サービスサイエンスと病院経営フレームワーク、ステークホルダと合意形成、経営戦略設計、仮説検証サイクルと経営分析を各論として学び、実際の電子カルテや経営分析システムを用いた演習を通じて医療サービスサイエンスと科学的病院経営への理解を深める。

iMOST 教育陣



ごあいさつ

JAIST iMOSTコースは2003年10月にスタートしたMOT(技術経営)コースと、そこから分離独立させて2009年10月に開設したMOS(サービス経営)コースとを発展的に統合し、技術とサービスの融合によるイノベーションマネジメントを扱うコースとして2011年度に設置した新しい社会人コースです。MOT・MOSのコース運営ノウハウを継承し、多様なバックグラウンドを持つ経験ある社会人の皆様が生徒として集まり、学生間や教員との間でイノベーション創出に関する活発な議論が展開されている環境は、両コース統合で更に強化されています。

討論重視のインタラクティブ講義、グループ討論での意見交換等、少人数で家族的な雰囲気の中で自由闊達な意見交換による知識創造の場が形成されています。ネットワークの価値を大切にしており、在学中はもちろん修了後も入学年次によらないネットワークが形成され社会人の現場で価値が発揮されることを目指しています。

こうしたコミュニティへの皆様の参加を期待しています。

副学長・先端領域社会人教育院長 **井川 康夫**

赤坂 洋一



株式会社
マグナデザインネット
社外取締役

専門 企業経営、半導体工学、半導体製造および製造装置
学位 工学博士(大阪大学)
職歴 三菱電機株式会社LSI開発部長、アブライドマテリアルズジャパン代表取締役社長兼アブライドマテリアルズ社米国本社上級副社長、JAIST先端科学技術研究調査センター教授、同センター長、大阪大学大学院基礎工学研究科教授・専攻長
主な活動・著書・論文など
■日本MOT学会 会長(2013-)、理事(2007-)、学会誌編集委員長(2011-2012) ■研究・技術計画学会 副会長(2009-2011)
■IEEE Technology Management Council Japan Chapter, Chair(2010-)
■日本MOT学会、研究・技術計画学会、サービス学会、電子情報通信学会、応用物理学会、IEEE(米国)、IET(英国)各会員
■Chartered Engineer

赤羽 雄二



ブレークスルー
パートナーズ株式会社
代表取締役

専門 ベンチャー共同創業・経営支援
学位 MS, Degree of Engineer in Mechanical Engineering (Stanford University)
職歴 株式会社小松製作所、マッキンゼー・アンド・カンパニー、Techfarm、ブレークスルーパートナーズ株式会社
主な活動・著書・論文など
■赤羽雄二(2013)「ゼロ秒思考」ダイヤモンド社 ■東京大学工学部「産業総論」講師、電気通信大学「ベンチャービジネス創出論」講師

荒木 賢二



知識科学研究科
客員教授
宮崎大学医学部 附属病院
医療情報部教授

専門 医療情報、病院経営、人工臓器
学位 博士(医学) 宮崎医科大学
職歴 宮崎大学医学部附属病院医療情報部教授
主な活動・著書・論文など
■特定非営利活動法人日本医療ネットワーク協会常任理事
■荒木賢二(共著)(2003)「MML規格書 Ver.3.0」NPO法人MedXMLコンソーシアム ■荒木賢二(共著)(2005)「医療情報と生命倫理」太陽出版

井川 康夫



副学長
知識科学研究科
(社会知識領域) 教授
先端領域社会人教育院長
(東京サテライト長)

専門 技術経営、研究開発マネジメント、技術戦略、エレクトロニクス及び半導体産業戦略、イノベーションマネジメント
学位 工学博士(東京工業大学)
職歴 東芝総合研究所研究員、Stanford大学電気工学科Stanford Electronics Laboratories客員研究員、東芝ケンブリッジ・リサーチ・センター(英国)副所長(責任者)、英国Cambridge大学Cavendish研究所客員、株式会社東芝 材料デバイス研究所第三研究所長、株式会社東芝 研究開発センター・企画グループ長、同センター・チーフリサーチオフィサー/副所長
主な活動・著書・論文など
■日本MOT学会 会長(2013-)、理事(2007-)、学会誌編集委員長(2011-2012) ■研究・技術計画学会 副会長(2009-2011)
■IEEE Technology Management Council Japan Chapter, Chair(2010-)
■日本MOT学会、研究・技術計画学会、サービス学会、電子情報通信学会、応用物理学会、IEEE(米国)、IET(英国)各会員
■Chartered Engineer

赤津 雅晴



知識科学研究科 客員教授
株式会社日立製作所
横浜研究所
情報サービス研究センター
センター長

専門 企業情報システム、サービス・イノベーション論
学位 博士(工学) 大阪大学
職歴 株式会社日立製作所横浜研究所部長
スタンフォード大学Engineering Economic Systems学科客員研究員
主な活動・著書・論文など
■電気学会電子・情報・システム部門役員 ■藤田憲久、赤津雅晴、水野浩孝(2005)「ビジネス情報システム」コロナ社

有馬 淳



知識科学研究科
客員准教授
富士通株式会社
フィールド・イノベーション本部
フィールド・イノベータ

専門 業務変革、ナレッジマネジメント、人工知能
学位 博士(工学) 京都大学
職歴 富士通株式会社入社、財団法人新世代コンピュータ技術開発機構、株式会社ナレッジ研究センター主任研究員、富士通株式会社フィールド・イノベーション本部首席フィールド・イノベータ
主な活動・著書・論文など
■有馬淳(編著)(2014)『「改革」を変える』日経BP
■T.Ugai, K.Aoyama, and J.Arima(2007) "A Mathematical Model of Knowledge Transfer and Case Studies," The 7th Int. Conf. on Knowledge, Culture and Change in Organisations.
■J.Arima(1997) "Production: A Common Form of Induction And Analogy," in Proceedings of the 15th Int. Joint Conf. on Artificial Intelligence (IJCAI97) pp.210-215.

池田 満



知識科学研究科
(サービス知識領域)
教授

専門 知識工学、医療サービスサイエンス
学位 工学博士(大阪大学)
職歴 大阪大学助教授
主な活動・著書・論文など
■人工知能学会理事、教育工学会理事、教育システム学会理事
■Wenhuan Lu and Mitsuru Ikeda(2008) "A Uniform Conceptual Model for Knowledge Management of International Copyright Law", Journal of Information Science, 34, 1, pp.93-109. ■Kazuhsa Seta and Mitsuru Ikeda(2008) "Conceptualizations for Designing a Learning System to Facilitate Meta-Cognitive Learning", Proc. of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications, pp.2134-2143.

伊藤 泰信



知識科学研究科
(社会知識領域)
准教授

専門 文化人類学、知識社会学、エスノグラフィ
学位 博士(比較社会文化)九州大学
職歴 日本学術振興会特別研究員PD、大分県立芸術文化短期大学専任講師、英国ロンドン大学UCL(University College London) 客員研究員、米国パロアルト研究所(Palo Alto Research Center)客員研究員
主な活動・著書・論文など
■伊藤泰信(編)(2009)『ラボラトリー=スタディーズをひらくために:日本における実験系研究室を対象とした社会科学研究の試みと課題』JAIST Press ■伊藤泰信(2007)『先住民の知識人類学:ニュージーランド=マオリの知と社会に関するエスノグラフィ』世界思想社 ■ITO, Yasunobu,(2004) "On Maori Studies as a discipline and its differentiation: from the viewpoint of social systems theory", The Journal of New Zealand Studies (NZSSJ), Volume 11, pp.11-24.

梅本 勝博



知識科学研究科
(社会知識領域)
教授

専門 ナレッジ・マネジメント、地域政策論
学位 Ph.D.(米国ジョージ・ワシントン大学)
職歴 一橋大学商学部助手
主な活動・著書・論文など
■梅本(2008)「ナレッジ・マネジメントのハイブリッド戦略」『「型」と「場」のマネジメント』(日本ナレッジ・マネジメント学会編)かんき出版、pp.83-102. ■梅本(2004)「知識創造自治体を目指して」『社会教育』696号、pp.8-15. ■梅本(共著)(2003)「医療・福祉のナレッジ・マネジメント」日経研出版

小野 俊之



株式会社日立製作所
横浜研究所
情報サービス研究センター
主管研究員

専門 ビジネス情報システム、情報システム工学
学位 博士(情報科学) 大阪大学
職歴 株式会社日立製作所システム開発研究所 主任研究員、宇都宮大学 非常勤講師、電気通信大学 非常勤講師
主な活動・著書・論文など
■電気学会 情報システム技術委員会 委員長 ■JCIS 2010 (The 3rd Japan-China Joint Symposium on Information Systems) Program Chair ■小野俊之、中田英樹、小坂満隆(1998)「クラスタリングにより選定したサンプリングポイントの需要データを用いた商品のマーケットシェア推定の方法」電気学会論文誌C, Vol.118, No.10, pp.1479-1484 ■T. Ono, H. Matsuo, N. Komoda(2005) "Methods for Estimating Customer's Product Preference in an Online Shopping System", Studies in Informatics and Control Journal, Vol.14, No.3, pp.143-153

神田 陽治



知識科学研究科
(サービス知識領域)
教授

専門 インターネットサービス、サービス科学、ビジネスイノベーション
学位 工学博士(東京大学)
職歴 株式会社富士通研究所サービスプラットフォーム研究センターサービスミドルウェア研究部長
富士通株式会社フィールド・イノベーション本部ディレクター
主な活動・著書・論文など
■Yoji Kohda(2013) "Service Innovation in Information Business" (Progressive Trends in Knowledge and System-Based Science for Service Innovation IGI Global, Chapter 17) ■神田陽治(2013)「ソーシャライゼーションにおける価値共創」(平成26年電気学会全国大会、シンポジウム講演S15-3) ■神田陽治(2010)「情報産業のサービス化の展望」(『産業のサービス化論へのアプローチ』社会評論社、第五章) ■神田陽治(2002)「わかる!インスタントメッセージング」オーム社

和泉 憲明



知識科学研究科
客員准教授
(独)産業技術総合研究所
社会知能技術研究ラボ
上級主任研究員

専門 人工知能、知識工学、サービスシステム開発
学位 博士(工学) 慶應義塾大学
職歴 独立行政法人産業技術総合研究所 サービス工学研究センター研究チーム長、大阪府立大学 文書解析・知識科学研究科 研究員(2008~)

主な活動・著書・論文など
■和泉憲明、吉岡 健、山口高平(2004)「ビジネス指向のサービス関連オントロジー」人工知能学会誌、第19巻、2号、pp.151-158. ■N.Kamimae, N.Izumi, K.Hasida(2007) "Evaluation of participants' contributions in knowledge creation based on semantic Authoring", The Learning Organization, Vol.14-3, pp.263-280. (2008.8 Highly Commended Award)

内平 直志



知識科学研究科
(社会知識領域)
教授

専門 研究開発マネジメント、サービス設計方法論、ソフトウェア工学
学位 博士(工学) 東京工業大学
博士(知識科学) 北陸先端科学技術大学院大学
職歴 株式会社東芝 研究開発センター次長、同技監、東京工業大学理財工学研究センター客員教授
主な活動・著書・論文など
■研究・技術計画学会 業務理事
■IEEE Technology Management Council Japan Chapter, Vice Chair
■内平(共著)(1995)「ベトリネットの理論と実践」朝倉書店
■N. Uchihira, Y. Kyoya, S. K. Kim, K. Maeda, M. Ozawa, K. Ishii(2008) "Analysis and Design Methodology for Recognizing Opportunities and Difficulties for Product-based Services", Journal of Information Processing, 16, 13-25.

小川 泰右



知識科学研究科
(サービス知識領域)
特任助教

専門 オントロジー工学、医療サービスサイエンス
学位 博士(知識科学) 北陸先端科学技術大学院大学
職歴 JAISTイノベーション人材プロジェクト研究員、医療サービスサイエンス教育プログラム研究員、同プロジェクト特任助教
主な活動・著書・論文など ■Taisuke Ogawa, Tomoyoshi Yamazaki, Mitsuru Ikeda, Kenji Araki, Muneou Suzuki, Koiti Hasida(2010) "Acquisition of Practical Knowledge in Medical Services Based on Externalizing Service Task-grasp of Medical Staff", Proc. in the Fifth International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems, pp.39-46. ■Taisuke Ogawa, Yukari Nagai, Mitsuru Ikeda(2009) "An Ontological Approach to Designers' Idea Explanation Style: Towards Supporting the Sharing of Kansei-ideas in Textile Design", A Special Issue on "Human-Centered Product Design and Development", Advanced Engineering Informatics, Vol.23, Issue.2, pp.157-164.

國藤 進



特任教授、知識科学研究科
特任教授(兼務)、
先端領域基礎教育院
特任教授(兼務)

専門 創造性支援システム、グループウェア、知識ベースシステム
学位 工学博士(東京工業大学)
職歴 富士通株式会社国際情報社会科学研究所、JAIST情報科学研究科教授、東京大学大学院非常勤講師、東京大学客員教授、東京農工大学大学院客員教授
主な活動・著書・論文など
■國藤(2006)「ナレッジマネジメントによる「知の共鳴」」『情報処理』vol.47, No.9, Sep. 2006, pp.1021-1027. ■S. Kunifuji, N. Kato and A. P. Wierzbicki(2007) "Creativity Support in Brainstorming", pp.93-126, in Creativity Environments edited by A.P.Wierzbicki and Y. Nakamori, Springer. ■國藤、羽山徹彰、三浦元喜、澤井進(2008)「発想支援と協調学習」『人工知能学会論文誌』(March, 2008) Vol.23, No.2, pp.200-209.

香月 祥太郎



立命館大学総合科学技術
研究機構 上席研究員

専門 技術戦略、技術マーケティング、戦略ロードマップ、サービス・リスクマネジメント
学位 工学博士(大阪大学)
職歴 三井情報開発株式会社総合研究所長、取締役システム事業部長、NTTソフトウェア株式会社技術開発部マルチメディア処理技術センター担当部長、鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授、副学部長、立命館大学情報理工学部生命情報学教授、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授、技術経営戦略研究センター長
主な活動・著書・論文など ■文部科学省科学技術政策研究所客員研究員 ■理化学研究所ゲム科学総合センター客員主幹研究員 ■Y. Okazaki, H. Bono, S. Kohtsuki, Y. Hayashizaki et al., "Functional annotation of a full-length mouse cDNA collection", "Nature, 409" (2001) pp.685~690 ■岡崎康司、坊屋秀雅(監訳)、香月祥太郎(共訳)(2005)「バイオインフォマティクス-ゲノム配列から機能解析へ」Medical Science International ■香月祥太郎(監修、共著)(2008)「技術ロードマップの設計・導入・実施と研究開発戦略への活用」技術情報協会

小坂 満隆



知識科学研究科
(サービス知識領域)
教授

専門 研究開発マネジメント論、サービスイノベーション、企業情報システム、確率制御システム
学位 工学博士(京大)

職歴 株式会社日立製作所システム開発研究所所長
株式会社日立製作所情報通信グループ
IDソリューション事業部長

主な活動・著書・論文など
■ M.Kosaka & K.Shirahada (Ed.) (2013) "Progressive trends in Knowledge and System-based Science for Service Innovation", IGI Global
■ 小坂 (編) (2012) 「サービス志向への変革」社会評論社
■ 小坂 (2010) 「知の成長モデルへのアプローチ」社会評論社

佐々木 康朗



知識科学研究科
(社会知識領域)
助教

専門 意思決定システム科学
学位 博士(工学)東京工業大学
職歴 株式会社価値総合研究所 研究員

■ 官公庁・民間企業等へのコンサルティング、調査・研究(株式会社価値総合研究所)
■ Yasuo Sasaki, Raimo P. Hämmäläinen and Esa Saarinen, "Modeling Systems of Holding Back as Hypergames and their Connections with Systems Intelligence," Systems Research and Behavioral Science, 2014. (accepted)
■ Yasuo Sasaki, "Optimal Choices of Fare Collection Systems for Public Transportations: Barrier versus Barrier-free," Transportation Research Part B, 60:107-114, 2014.

白肌 邦生



知識科学研究科
(サービス知識領域)
准教授

専門 経営組織論、サービスマーケティング
学位 博士(学術)東京大学
職歴 日本学術振興会特別研究員(DC1)、テキサス州立大学マーケティング学科客員研究員

主な活動・著書・論文など
■ K.Shirahada (2010) "Improving automobile technical personnel's goal commitment: investigation of managerial actions based on individual potentials," Int. J. Automotive Technology and Management, Vol. 10, No. 4. ■ K.Shirahada, Raymond P. Fisk "Broadening the Concept of Service: A Tripartite Value Co-Creation Perspective for Service Sustainability", QUIS2011. ■ K.Shirahada, Shota Imoto, Michitaka Kosaka, and Takunari Katsura (2010) Near-Infrared Spectroscopy Approach for Web Based Service Marketing, PICMET, Thailand.

角 忠夫



知識科学研究科客員教授
松蔭大学大学院経営管理研究科 教授

専門 技術経営論(MOT)、製造業のサービス化論
学歴 京大工学部電気工学科卒業
職歴 株式会社東芝 取締役 電機事業本部長
株式会社芝浦製作所 代表取締役社長
芝浦メカトロニクス株式会社 代表取締役社長

主な活動・著書・論文など
■ 株式会社むさし野経営塾代表取締役塾長
■ 日本開発工学会理事
■ 日本MOT学会理事
■ 日本MOT振興協会諮問委員
■ 戦略経営協会理事
■ アーネスト育成財団評議員

高木 理



群馬大学医学部
附属病院
システム統合センター
助教

専門 知識モデル、医療情報サービス、知識共創支援システム
学位 博士(数学)京都産業大学
職歴 日本学術振興会特別研究員
京都大学非常勤講師
独立行政法人産業技術総合研究所特別研究員
京都産業大学特約講師
独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員

主な活動・著書・論文など
■ International Journal On Advances in Software: Editorial Board Member ■ O.Takaki, I.Takeuti, N.Izumi, K.Hasida, (2010) "Syntax and Semantics of Workflows That Include Passbacks", Proc. of ICSEA 2010. IEEE Computer Society Press, pp.169-177. ■ Osamu Takaki, Izumi Takeuti, Noriaki Izumi and Koiti Hasida, (2010) "Incremental Verification of Consistency Property of Large-Scale Workflows That Contain Passback Flows", Proc. of JCKBSE 2010, Kaunas University of Technology, pp.163-177.

近藤 修司



知識科学研究科
客員教授
株式会社四画面思考研究所
代表取締役社長

専門 経営コンサルティング、新製品・新事業探索論、新産業創出論、研究開発マネジメント論、技術経営(MOT)論、成功の宣言文による人間力革新論・企業革新論、4画面思考法
学歴 早稲田大学理工学部卒業
職歴 株式会社日本能率協会コンサルティング社長
同社最高顧問

主な活動・著書・論文など
■ 近藤、戸張真(1998)「新製品・新事業開発の基礎テキスト」日本能率協会マネジメントセンター ■ 近藤(2001)「パソコン閃き術」光文社 ■ 近藤(1981)『技術マトリックス』による新製品・新事業探検法」日本能率協会 ■ 近藤、藤井健也(2002)「経営DNAフロンティア」日刊工業新聞社 ■ 近藤、成功の宣言文コミュニティ(2009)「4画面思考法の基本」

佐藤 信紘



知識科学研究科 客員教授
順天堂大学 特任教授

専門 内科学
学位 大阪大学医学部卒業、医学博士(大阪大学)
職歴 順天堂大学医学部教授(消化器内科学講座)、順天堂練馬病院長、大阪警察病院院長、順天堂大学名誉教授、順天堂大学特任教授

主な活動・著書・論文など
■ 佐藤信紘(編)三輪洋人、荻原達雄(協力)(1999)「ここまできた胃の科学」中外医学社 ■ Sato,N, Wilson DF, Chance,B (1971) "The spectral properties of b cytochromes in intact mitochondria", Biochim.Biophys Acta 253:88-97. ■ Sato N, Hayashi N, Kawano S, Kamada T, Abe H (1983) "Hepatic hemodynamics in patients with chronic hepatitis or cirrhosis as assessed by organ-reflectance spectrophotometry", Gastroenterology 84:611-616.
■ 日本神経消化器病学会(理事長)、日本内科学会(功労会員)、日本統合医療学会(理事)

鈴木 斎王



知識科学研究科
客員准教授
宮崎大学医学部附属病院
医療情報部准教授

専門 医療情報学、血液学
学位 博士(医学)宮崎大学
職歴 宮崎医科大学医学部附属病院(研修医)、ハーバード大学、米国家疾病予防センター(CDC)研究員、宮崎医科大学医学部附属病院助手(第2内科、血液学)、宮崎大学保健管理センター助教授、宮崎医科大学(現宮崎大学)、医学部附属病院医療情報部助教授

主な活動・著書・論文など
■ T.Ogawa, T.Yamazaki, M.Ikeda, K.Araki, M.Suzuki, K.Hasida (2008) Support Methodology for Building Ontologies Based on the Externalization of Stakeholders' Viewpoints: A Case Study of a Clinical Pathway Ontology, Third International Conference on Knowledge Information and Creativity Support Systems (KICSS2008), pp.52-58. ■ 串間宗夫、荒木賢二、鈴木斎王、荒木早苗、田村宏樹、淡野公一、外山貴子、石塚典彦、池田満(2009)「マイニング技法を活用した電子カルテ(IZANAMI)のネットワーク可視化」電子情報通信学会

外川 英明



中央大学法学部
特任教授
弁理士

専門 知的財産法(特許法、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法等)
学歴 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
職歴 株式会社東芝知的財産部技術法務担当部長、ソフト保護・法規担当部長、商標・意匠担当部長

主な活動・著書・論文など
■ 外川(2011)「実践特許法第5版」中央経済社 ■ 外川(2011)「商標の普通名称化・慣用商標化とその回復—識別力と独占適性の観点から—」(別冊)特許5号、2011)日本弁理士会
■ 外川(2011)「発明の進歩性における容易想到性の判断—事後分析的思考の排除等を巡る最近の判例動向とその対応策—」『最近の内外の知的財産権問題に係る主要動向』日本機械輸出組合 ■ 日本弁理士会中央知的財産研究所内部研究員
■ 日本機械輸出組合知的財産権問題専門委員会委員長
■ 工業所有権審議会臨時委員(2009年12月〜)

高橋 浩



金沢大学大学院講師、
MCPC顧問

専門 経営情報学、経営工学、技術経営
学位 博士(学術)東京工業大学
職歴 富士通株式会社
宮城大学食産業学部教授

主な活動・著書・論文など
■ 国際戦略経営研究会理事 ■ 高橋浩(2000)「デジタル融合市場」ダイヤモンド社 ■ 高橋浩(2003)「情報化に関する諸法則と新しいビジネス構造」(水野幸男(編著)「経営工学のニューフロンティア15巻」朝倉書店) ■ 高橋浩(2009)「オープンイノベーションの普及と阻害要因」東北大学経済学会経済学、Vol.70, No.4 ■ 高橋浩(2012)「カスタムソフト過剰利用克服によるサービスイノベーションの促進」経営情報学会誌、Vol.20, No.4.

田中 弘



知識科学研究科 客員教授
パシフィックPMイノベーション代表
日本プロジェクトマネジメント協会 前理事長

専門 戦略・プロジェクト&プログラムマネジメント論、イノベーション・プログラムマネジメント論、比較プロジェクトマネジメント論
学位 Ph.D.(Strategy, Program and Project Management), Grand Ecole-Lille Graduate School of Management), France; Academician-Dr. Sc. Hon., Kiev National University of Construction and Architecture, Ukraine; Hon. Dr. of Human Science, Libiv State University of Vital Science, Ukraine

職歴 日揮株式会社プロジェクト業務本部部長代行兼日揮プラントイノベーション株式会社取締役、特定非常勤活動法人日本プロジェクトマネジメント協会代表・理事長

主な活動・著書・論文など
■ フランスSKEMA Business School 博士課程国際教授、セネガルCAS3PM大学院大学首席教授、ウクライナ国立キエフ建設・建築大学等国立大学3校名誉教授、ロシア連邦モスクワ国立文科大学国際教授、慶應義塾大学大学院経営管理研究科 Grand Design by Japan プログラム協力教授、■ Tanaka, H. (2010). The changing landscape of project management. Project Perspective 2011 (Vol.10000); International Project Management Association ■ Yaroshenko, Bushuyev, Tanaka (2011) "Innovation Projects and Programs based on the Knowledge System of P2M", UPMA Press (ロシア語) ■ Tanaka, H. (2013). A viable system model reinforced by meta program management. Procedia - Social and Behavioural Sciences Journal, 74, pp. 135-145; Elsevier

遠山 亮子



知識科学研究科
客員教授
中央大学大学院
戦略経営研究科
教授

専門 知識経営、経営戦略、イノベーションマネジメント
学位 Ph.D.(米国ミシガン大学)
職歴 JAIST 知識科学研究科助手、同助教授、准教授

主な活動・著書・論文など
■ Toyama, R. (共著)(2008) "Managing Flow: A Process Theory of the Knowledge-Based Firm," Palgrave Macmillan. ■ Toyama, R. (共著)(2000) "A Firm as a Knowledge-Creating Entity: A New Perspective on the Theory of the Firm," Industrial & Corporate Change vol.9-1, Oxford University Press. ■ 遠山(編集)(2006)「知識創造経営とイノベーション」(MOTテキストシリーズ)丸善 ■ 遠山、野中郁次郎(著)(2000)「『よい場』と革新的リーダーシップ:組織の知識創造についての試論(特集21世紀の経営システム)」一橋ビジネスレビュー、48(1-2)、pp.4-17.

永田 晃也



知識科学研究科
客員教授
九州大学大学院
経済学研究院
教授

専門 科学技術政策、技術経済論
学位 経済学修士(早稲田大学)
職歴 JAIST 知識科学研究科助教授、文部科学省科学技術政策研究所総括主任研究官、政策研究大学院大学連携教授

主な活動・著書・論文など
■ 組織学会理事(1999年~2002年)、研究・技術計画学会理事(2004年~2005年) ■ 永田、野中郁次郎、泉田裕彦(編著)(2003)「知識国家論序説」東洋経済新報社 ■ 永田(編著)(2004)「知的財産マネジメント:戦略と組織構造」中央経済社 ■ 永田(共訳)、スティープ・フラー(著)(2009)「ナレッジマネジメントの思想」新曜社

中村 孝太郎



株式会社イー・クラフト
代表取締役

専門 人工知能、システム科学、ナレッジマネジメント、技術経営、サービス科学
学位 工学博士(システム科学)東京工業大学
博士(知識科学)北陸先端科学技術大学院大学

職歴 日本たばこ産業株式会社主席研究員
JT エンジニアリング株式会社取締役(SI事業統括)
主な活動・著書・論文など
■ 高齢者介護総合情報サイト「ケアコミュニティ」運営 ■ SRIL Japan (Service Research Innovation Institute) 事務局 ■ 野中郁次郎(監修)、風瀬邦夫(編)、(14名の共著)(2005)「富士道の知的『現場』改革」『F2.3ナレッジ型サービス創造の考え方』ダイヤモンド社 ■ 亀岡秋男(監修)、(12名の共著)(2007)「サービスサイエンス—新時代を開くイノベーション経営を目指して」NTS出版 ■ 小坂満隆、角忠夫(編)(13名共著)(2010)「サービスイノベーションにおけるサービス価値」『産業のサービス化論』へのアプローチ(6章)、社会評論社

西岡 由紀子



株式会社アクト・コンサルティング 執行役員

専門 業務分析・設計、IT化要求開発、モデリング手法
学位 工学修士(京都大学)
職歴 松下電器産業(現パナソニック)、デジタルコンピュータ(現ワイ・ディー・シー)他を経て現職

主な活動・著書・論文など
■ 西岡(2010) "設計事務所が導くIT化の目的価値の実現", 情報処理学会デジタルプラクティス, Vol.1 No.4, pp.190-199
■ Nishioka & Kosaka(2013) "Service Value Co-creation for Enterprise IT Solution Services", ACIS2013
■ 西岡、小坂(2014) "ビジネス価値創造に向けたサービス場の適用", 電気学会全国大会シンポジウム2014, S15-S6

Hugo Tschirky



スイス連邦工科大学
(ETH)
名誉教授

専門 Nuclear Reactor Engineering, Technology & Innovation Management, Strategic Management, Venture Capital Investments
学位 Ph.D. in Nuclear Reactor Technology (スイス連邦工科大学: ETH)
DBA in Business Administration (スイス連邦工科大学: ETH)

職歴 CEO of Carl Zeiss Switzerland AG (Optics, Electronics, Mechatronics), CEO of Cerberus AG (leading Fire Protection Company), スイス連邦工科大学教授、Guest Professor MIT、Guest Professor Tokyo Institute of Technology

主な活動・著書・論文など
■ チルキー(著)(2005)「科学経営のための実践的MOT:技術主導製企業からイノベーション主導製企業へ」日経BP
■ チルキー(著)(2009)「イノベーション・アーキテクチャー:イノベーションの戦略策定の方法論」同友館

永井 由佳里



知識科学研究科
(知識メディア領域)
教授

専門 デザイン論、デザイン知識
学位 博士(学術)千葉大学
Ph. D. (University of Technology, Sydney)
職歴 筑波技術短期大学デザイン学科講師、同助教授

主な著書・論文・活動など
■ Nagai, Y., Taura, T. (2010), Discussion on Direction of Design Creativity Research (Part 2) - Research Issues and Methodologies: From the Viewpoint of Deep Feelings and Desirable Figure, Design Creativity 2010, Springer, London, 9-14 ■ 周豊、永井由佳里(2010)「連想概念ネットワークに基づくデザイン印象分析の方法:季節感ユニフォームがもたらす印象の事例研究」日本デザイン学会デザイン学研究、57(3)、1-10

仲林 清



千葉工業大学
情報科学部
教授

専門 教育工学、eラーニング、技術標準化
学位 博士(人間科学)早稲田大学
職歴 NTT情報通信研究所、NTTレゾナント、メディア教育開発センター、熊本大学客員教授、長岡技術科学大学客員教授、放送大学ICT活用・遠隔教育センター

主な活動・著書・論文など
■ 情報処理学会情報規格調査会SC36 専門委員長、NPO法人eラーニングコンソシアム理事・執行委員長、教育システム情報学会理事・編集副委員長 ■ 「eラーニングにおける技術標準化とオープン化」、Trends of e-Learning Technology Standardization: Its Impact on Industry and Japanese Efforts」

中森 義輝



知識科学研究科
(システム知識領域)
教授

専門 システム方法論、複雑系モデリングとシミュレーション
学位 工学博士(京都大学)
職歴 甲南大学理学部応用数学科、国際応用システム解析研究所、独立行政法人国立環境研究所(客員)、中国大連理工大学(客員)

主な活動・著書・論文など
■ 中森(2010)「知識構成システム論」丸善株式会社 ■ 中森(2002)「システム工学」コロナ社 ■ 中森(2000)「感性データ解析:感性情報処理のためのファジィ数量分析手法」森北出版


丹羽 清





東京大学
名誉教授


専門 技術経営論、イノベーション論
学位 工学博士(東京工業大学)
職歴 日立製作所システム開発研究所、同基礎研究所主任研究員、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻教授

主な活動・著書・論文など
■ Niwa (1989) "Knowledge-Based Risk Management in Engineering: A Case Study in Human-Computer Cooperative Systems" (Wiley Series in Engineering and Technology Management) John-Wiley. ■ Niwa & Kocaoglu 編(1991)「Technology Management: The New International Language」IEEE. ■ 丹羽・山田編(1999)「技術経営戦略」生産性出版 ■ 丹羽(2006)「技術経営論」東京大学出版会 ■ 丹羽(2010)「イノベーション実践論」東京大学出版会 ■ 丹羽編(2013)「技術経営の実践的研究:イノベーション実現への突破口」東京大学出版会 ■ PICMET-JAPAN代表 ■ 科学技術と経済の会「技術経営・イノベーション賞」アドバイザー

橋田 浩一	専門 知識工学、認知科学、自然言語処理
	学位 理学博士 (東京大学)
	職歴 電子技術総合研究所知能情報部長 産業技術総合研究所サイバーアシスト研究センター長 情報技術研究部門長等を経て現職
	主な活動・著書・論文など ■橋田 (1994)「知のエンジニアリング：複雑性の地平」ジャストシステム ■橋田他 (編著)「認知科学 (岩波講座)」岩波書店、1994-1995年 ■橋田他 (編著)「言語の科学 (岩波講座)」岩波書店、1997-1999年 ■言語処理学会会長、日本認知科学学会長等を歴任
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャルICT研究センター 教授	

林 幸雄	専門 複雑ネットワーク科学
	学位 博士 (工学) 京都大学
	職歴 富士ゼロックス株式会社システム技術研究所 株式会社ATR視聴覚機構研究所 株式会社ATR人間情報通信研究所研究員 (出向) 富士ゼロックス株式会社システムコミュニケーション研究所 文部科学省研究振興局 学術調査官併任
	主な活動・著書・論文など ■科学技術振興財団、さがきが「知の創生と情報社会」領域アドバイザー ■林幸雄 (編著) (2007)「ネットワーク科学の道具箱」近代科学社 ■林幸雄 (2007)「噂の拡がり方：ネットワーク科学で世界を読み解く」化学同人
知識科学研究科 (システム知識領域) 准教授	


平澤 冷	専門 科学技術政策研究、技術経営論、システム論
	学位 工学博士 (東京大学)
	職歴 東京大学教養学部化学教室助教授、基礎科学科第二教授、科学技術庁科学技術政策研究所総括主任研究官、政策研究大学院大学政策研究科教授、海外技術者研修協会MOTコース主任講師、JAIST経営協議会委員
	主な活動・著書・論文など ■産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会委員長、独立行政法人製品評価技術基盤機構評価委員長、産業総合研究所研究評価検討委員会委員長、内閣府独立行政法人評価委員会委員、独立行政法人沖縄科学技術振興機構評価委員長、研究・技術計画学会顧問、財団法人未来工学研究所副理事長など
東京大学 名誉教授	


平澤 冷	専門 科学技術政策研究、技術経営論、システム論
	学位 工学博士 (東京大学)
	職歴 東京大学教養学部化学教室助教授、基礎科学科第二教授、科学技術庁科学技術政策研究所総括主任研究官、政策研究大学院大学政策研究科教授、海外技術者研修協会MOTコース主任講師、JAIST経営協議会委員
	主な活動・著書・論文など ■産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会委員長、独立行政法人製品評価技術基盤機構評価委員長、産業総合研究所研究評価検討委員会委員長、内閣府独立行政法人評価委員会委員、独立行政法人沖縄科学技術振興機構評価委員長、研究・技術計画学会顧問、財団法人未来工学研究所副理事長など
東京大学 名誉教授	

船橋 誠壽	専門 システム制御
	学位 工学博士 (京都大学)
	職歴 株式会社日立製作所 (中央研究所、システム開発研究所) 京都大学大学院情報学研究所客員教授 独立行政法人国立環境研究所監事
	主な活動・著書・論文など ■計測自動制御学会名誉会員、フェロー、電気学会フェロー ■船橋、本間、小坂 (2003)「企業における横断型科学技術の重要性」『計測と制御』42、3、pp.215-221. ■M. Funabashi, K. Kawano, S. Sameshima, and H. Kato (2008) "Evolution of Autonomous Decentralized Systems for Information and Control", SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol.1, No.3, pp.184-191.
特定非営利活動法人 横幹連合 理事・事務局長	

松塚 貴英	専門 分散企業システム、Webアプリケーション開発・実行環境、ソフトウェアアーキテクチャ
	学位 修士 (工学) 東京工業大学
	職歴 富士通株式会社 米国 Carnegie Mellon University客員研究員
	主な活動・著書・論文など ■松塚貴英 (2008)「Ajaxの基本と実践 システム開発に役立つ知識とテクニック」日経BP社 ■吉田裕之、松塚貴英 (2005)「よくわかるJavaServer Facesのしくみ」ソフトリサーチセンター
情報科学研究科 客員教授 Manager, Fujitsu Laboratories of Europe Limited (英国)	


長谷川 克也	専門 オープンイノベーション、アントレプレナーシップ、産学連携、ベンチャーキャピタル
	学位 工学修士 (東京大学)
	職歴 松下電器産業 (現パナソニック) 中央研究所、同半導体研究センター、同海外R&Dセンター、Stanford大学客員研究員、Panasonic Ventures Principal、Venture Connection LLC Managing Director、早稲田大学MOT研究所教授
	主な活動・著書・論文など ■日本半導体ベンチャー協会理事、NEDO技術委員、JST評価委員 ■経済産業省「ナノテク・スピノフ研究会」委員、経済産業省「コーポレート・ベンチャーリング推進研究会」委員・長谷川 (2008)「オープン・イノベーション時代の技術戦略」技術と経済 No.497 ■長谷川 (2008)「コーポレート・ベンチャー・キャピタルに関する一考察」日本ベンチャー学会誌 vol.11 ■長谷川 (2007)「ハイテク・ベンチャーの資本構成リストラクチャリング」日本ベンチャー学会誌 vol.9
東京大学 産学連携本部 特任教授	

日高一義	専門 サービス・サイエンス、最適化技術
	学位 博士 (理学) 早稲田大学
	職歴 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所 IBM Research ワトソン研究所戦略部門 文部科学省科学技術助向研究所客員研究官
	主な活動・著書・論文など ■Stuart I Feldman, Krishna S Nathan, Thomas Li, Kazuyoshi Hidaka, and Corinna Schulze, (2006) "The Clarion Call for Modern Services: China, Japan, Europe, and the US", Communications of the ACM, Vol.49, No.7. ■Kazuyoshi. Hidaka, (2006) "Trends in Services Sciences in Japan and Abroad", Science & Technology Trends Quarterly Review No.19, National Institute of Science and Technology Policy, Ministry of Education, April.
東京工業大学 大学院イノベーション マネジメント研究科 教授	


Robert Phaal	専門 Strategic technology management
	学位 Ph.D. (University of Cambridge)
	職歴 The Welding Institute, UK. University of Cambridge
	主な活動・著書・論文など ■Dr Phaal conducts research in the area of strategic technology management. Topics of interest include roadmapping, the emergence of technology-based industry, technology evaluation, strategic visualisation and the development of practical management tools. He contributes to teaching in these areas at under- and postgraduate levels, and supports transfer of knowledge to industry through training and consulting activities. ■Phaal, R., Farrukh, C. and Probert, D. (2010) "Roadmapping for strategy and innovation - aligning technology and markets in a dynamic world, Institute for Manufacturing", University of Cambridge, ISBN 978-1-902546-82-7.
知識科学研究科 客員教授 Principal Research Associate, University of Cambridge	


Robert Phaal	専門 Strategic technology management
	学位 Ph.D. (University of Cambridge)
	職歴 The Welding Institute, UK. University of Cambridge
	主な活動・著書・論文など ■Dr Phaal conducts research in the area of strategic technology management. Topics of interest include roadmapping, the emergence of technology-based industry, technology evaluation, strategic visualisation and the development of practical management tools. He contributes to teaching in these areas at under- and postgraduate levels, and supports transfer of knowledge to industry through training and consulting activities. ■Phaal, R., Farrukh, C. and Probert, D. (2010) "Roadmapping for strategy and innovation - aligning technology and markets in a dynamic world, Institute for Manufacturing", University of Cambridge, ISBN 978-1-902546-82-7.
知識科学研究科 客員教授 Principal Research Associate, University of Cambridge	


David Probert	専門 Technology and Innovation Strategy
	学位 Degree in Mechanical Engineering (MA) (University of Cambridge)
	職歴 Marks and Spencer, London, UK Philips Electronics Industries, London, UK Philips International, Eindhoven, Netherlands
	■David Probert pursued an industrial career for 18 years before returning to the Engineering Department in Cambridge in 1991. His experience covers a wide range of industrial engineering and management disciplines in the UK and overseas. He is a founding member and Head of the Centre for Technology Management within the Institute for Manufacturing, University of Cambridge. Current research interests include technology and innovation strategy, technology management processes, technology intelligence, open innovation, new product development, industry and technology evolution, software sourcing and industrial sustainability. ■Probert, D., Dissel, M., Farrukh, C., Mortara, L., Thorn, V. & Phaal, R.(2013), "The process of making the business case for technology: A sales and marketing perspective for technologists", Technological Forecasting and Social Change: An International Journal, Volume 80, Number 6, July 2013, pp. 1129 - 1139. ISSN: 0040-1625.
知識科学研究科 客員教授 Reader in Technology Management, Head of Centre for Technological Management, University of Cambridge	


溝口 理一郎	専門 オントロジー工学、サービスサイエンス
	学位 工学博士 (大阪大学)
	職歴 大阪大学 産業科学研究科教授 (2012年9月まで)
	■人工知能学会会長 (2006-2008)、国際AIED学会会長 (2001-2003) ■オントロジー工学 (単著) オーム社 (2005) ■オントロジー工学の理論と実践 (単著) オーム社 (2012)
サービスサイエンス研究センター 特任教授	


光藤 昭男	専門 プロジェクトマネジメント論、MOT、経営情報システム
	学位 修士 (東京工業大学)、MS (マサチューセッツ工科大学 Sloan School MOT)
	職歴 東洋エンジニアリング株式会社産業システム事業本部プロジェクト本部長 株式会社荏原製作所取締役常務執行役員経営・事業企画統括、情報システム統括 ITエンジニアリング株式会社代表取締役社長 株式会社荏原エージェンシー代表取締役社長
	主な活動・著書・論文など ■社団法人日本情報システムユーザー協会理事 (2002-2008) ■経済産業省CIO戦略フォーラム委員 (2007-2008) ■社団法人企業研究会シエアードサービス経営者会議運営委員 (2010-2011) ■秋田県産業サポーターズ幹事、委員 (2006-現在) ■社団法人蔵前工業会評議員 (2期)、監事 (1期)、東京支部常任幹事 (2006-現在) ■共著 (1997)「テクノロジーズワンスモア」丸善新書
特定非営利活動法人 日本プロジェクト マネジメント協会 理事長	


藪谷 隆	専門 省エネ環境、サービス事業モデル開発と展開
	学歴 北海道大学経済学部経済学卒業
	職歴 株式会社日立製作所 株式会社日立総合計画研究所主任研究員
	主な活動・著書・論文など ■小坂満隆、藪谷隆 (2009)「インバータを利用した省エネルギーCO2排出削減に対するサービスビジネスモデルに関する一考察」『電気学会論文誌C』電気学会 ■藪谷隆 (2006)「事業リスクと事業成果のシェアリングに係わるビジネスモデル」生産設備サービス事業の展開、日本リアルオプション学会『リアルオプションと経営戦略』(第9章)、シグマベイスキャピタル ■藪谷隆 (2010) 横断型基幹科学技術研究団体連合シナレ研究会「横断型科学技術とサービスイノベーション」(第7章)、社会評論社
トモソウ・ジャパン 株式会社 代表取締役	


山岡 隆志	専門 マーケティング、事業開発
	学位 修士 (経営学) マサチューセッツ工科大学 (MIT) スローン経営大学院
	職歴 株式会社クオリタ取締役兼CMO 株式会社日本航空インターナショナル マーケティング企画部 株式会社日本航空 米州支社
	主な活動・著書・論文など ■山岡 (2009)「顧客の信頼を勝ちとる18の法則—アドボカシー・マーケティング—」日本経済新聞出版社 ■山岡 (2010)「カスタマー・アドボカシーの中核概念」『季刊マーケティングジャーナル』118号、pp.4-16. ■山岡 (2010)「カスタマー・アドボカシー—戦略論」日本商業学会第60回全国研究大会 ■『THINK!』東洋経済新報社に連載 (2007-2008年)
株式会社エイチ・アイ・エス 本社事業開発室長	


山岡 隆志	専門 マーケティング、事業開発
	学位 修士 (経営学) マサチューセッツ工科大学 (MIT) スローン経営大学院
	職歴 株式会社クオリタ取締役兼CMO 株式会社日本航空インターナショナル マーケティング企画部 株式会社日本航空 米州支社
	主な活動・著書・論文など ■山岡 (2009)「顧客の信頼を勝ちとる18の法則—アドボカシー・マーケティング—」日本経済新聞出版社 ■山岡 (2010)「カスタマー・アドボカシーの中核概念」『季刊マーケティングジャーナル』118号、pp.4-16. ■山岡 (2010)「カスタマー・アドボカシー—戦略論」日本商業学会第60回全国研究大会 ■『THINK!』東洋経済新報社に連載 (2007-2008年)
株式会社エイチ・アイ・エス 本社事業開発室長	

山口 裕康	専門 財務会計、管理会計、企業財務
	学歴 慶應義塾大学経済学部卒業
	職歴 社団法人日本能率協会 (現 株式会社日本能率協会コンサルティング) チーフコンサルタント、オパール経営研究所代表、公認会計士、証券アナリスト (検定会員)
	主な活動・著書・論文など ■上場大企業次世代経営者育成研修、中堅オーナー企業役員塾、ベンチャー企業育成支援など ■山口 (1988)「図解 経営分析がわかる本」日本実業出版社 ■山口 (1986)「新創業時代のリスクマネジメント」実務教育出版 ■山口 (1985)「シミュレーション感覚の経営分析入門」実務教育出版
公認会計士	


吉田 夏彦	専門 科学哲学
	学歴 北海道大学文学部卒業
	職歴 東京工業大学助教授、同教授、お茶の水女子大学教授、立正大学文学部哲学科教授
	主な活動・著書・論文など ■科学基礎論学会名誉会員、日本科学哲学学会名誉会員 ■吉田、野崎昭弘 (訳)クワイン (著) (1994)「哲学事典：～とは何であるかを考える」白揚社 ■吉田 (1990)「デジタル思考とアナログ思考」日本放送出版協会 ■吉田 (1985)「絵のパラドクスと言葉のパラドクス」岩波書店 ■吉田 (1985)吉田夏彦他 (編著)「2001年小事典」東京堂出版 ■吉田 (1985)「記号と人間」放送大学教育振興会
東京工業大学 名誉教授	


八木 龍平	専門 ソーシャルデザイン、質的調査、心理測定
	学位 博士 (知識科学) 北陸先端科学技術大学院大学
	職歴 NTTコムウェア株式会社ビジネス系システム事業部 株式会社富士通研究所パーソナルシステム研究センター 青山学院大学社会学部非常勤講師
	■八木龍平、國藤進 (2005)「効果的学習技能が埋め込まれたWebテキスト読解支援システム」コンピュータ&エデュケーション, vol.18, pp.90-98. ■八木龍平、林吉郎 (2007)「アナログ・デジタルマインドセットを測定する心理テストの開発と妥当性検証」異文化コミュニケーション, No.10, pp.133-147. ■八木龍平、原田博一、石垣一司 (2008)「お客様視点の質的デザイン」雑誌FUJITSU, Vol.59, No.6, pp.641-646, 2008-11. ■林吉郎、八木龍平 (2011)「本当の自分がわかる6眼心理テスト」創元社.
知識科学研究科 客員准教授 株式会社富士通研究所 ソーシャルイノベーション 研究所 研究員	

山浦 晴男	専門 創造性開発論、質的研究方法論、地域再生論
	学歴 中央大学卒業
	職歴 株式会社川喜田研究所主任研究員、情報工房設立・代表
	主な活動・著書・論文など ■北陸先端科学技術大学院大学非常勤講師、東京農工大学非常勤講師、名桜大学大学院非常勤講師、明星大学非常勤講師 ■山浦 (2012)「質的統合法入門—考え方と手順」医学書院 ■山浦 (2010)「住民・行政・NPO協働で進める最新地域再生マニュアル」朝日新聞出版 ■山浦 (2001)「本当に役立つ!エクセルでできる文書データ活用術」日本経済新聞社 ■山浦 (1998)「ビジネスマンのための自分の考えを深める技術」PHP研究所
情報工房代表 千葉大学大学院 特命教授	

山浦 晴男	専門 創造性開発論、質的研究方法論、地域再生論
	学歴 中央大学卒業
	職歴 株式会社川喜田研究所主任研究員、情報工房設立・代表
	主な活動・著書・論文など ■北陸先端科学技術大学院大学非常勤講師、東京農工大学非常勤講師、名桜大学大学院非常勤講師、明星大学非常勤講師 ■山浦 (2012)「質的統合法入門—考え方と手順」医学書院 ■山浦 (2010)「住民・行政・NPO協働で進める最新地域再生マニュアル」朝日新聞出版 ■山浦 (2001)「本当に役立つ!エクセルでできる文書データ活用術」日本経済新聞社 ■山浦 (1998)「ビジネスマンのための自分の考えを深める技術」PHP研究所
情報工房代表 千葉大学大学院 特命教授	

山上 俊彦	専門 通信プロトコル国際標準化、モバイルインターネット
	学位 博士 (工学) 香川大学
	職歴 電電公社横須賀電気通信研究所 AT&Tベル研究所客員研究員 NTTマルチメディアビジネス開発部 東京農工大学大学院客員教授 筑波大学大学院非常勤講師 東京大学大学院非常勤講師
	主な活動・著書・論文など ■情報処理学会グループウェア研究会幹事1992-1996年 ■ISO IEC/SC18 WG4国内委員会 (以後SC6 Messaging-SWG) 主査 1991年-2002年 ■W3C XHTML Basic 1.0 Co-Editor 2000. ■OMA WML 2.0 Editor 2001. ■OMA Browser Technology WG Interim Vice-Chair 2007-2008. ■電子情報通信学会英文誌 (D) Knowledge, Information and Creativity Support System特集号幹事 (2007-2008年)
株式会社ACCESS マーケティング戦略室 シニアスペシャリスト	

湯浦 克彦	専門 情報アーキテクチャ、サービス設計、サービスマネジメント、IT人材育成
	学位 博士 (工学) 大阪大学
	職歴 株式会社日立製作所 (中央研究所、ビジネスソリューション事業部) 株式会社日立コンサルティング
	主な活動・著書・論文など ■湯浦克彦 (2006)「ITガバナンスの構造—SOX法とCSRが変える企業システム」エヌアイピーアクセス ■湯浦克彦 (2005)「実践!!エンタープライズ・アーキテクチャー・ビジネスシステムの頂点を目指せ」ソフトリサーチセンター
静岡大学大学院 情報学研究科 教授	

和田 知久	専門 OFDM通信システム設計、システム・オンチップ (SOC) 設計、デジタル回路、アナログ回路、コンピュータアーキテクチャ
	学位 工学博士 (大阪大学)
	職歴 三菱電機株式会社ULSI研究所、琉球大学工学部助教授、琉球大学工学部教授、株式会社マグナデザインネット・チーフサイエンティスト
	主な活動・著書・論文など ■LSIデザインコンテスト審査委員長 ■財団法人モロロジー研究所・沖縄モロロジー事務所副代表 ■学振・超集積化デバイス・システム165委員会委員 ■沖縄県科学技術会議委員
琉球大学 情報工学科 教授	

社会人学生が「働く」「学ぶ・究める」ための

JAIST iMOST の学び環境

「職学近接」 「知的刺激」 で進む。

スピード感ある学修

基本的に1科目が1週間で完結する「集中講義形式」で授業を行っています。学生がスピード感を持って知識を吸収し、ステップアップを実感できるようになっています。

知的好奇心を刺激するカリキュラム

JAIST iMOSTは、社会人学生の「主体的な学び」に応える知的好奇心を刺激するカリキュラムを用意しています。

夜間・土日集中開講

社会人が学びやすいように、授業を平日夜間と土日に集中して開講しています。仕事と学びを両立させた、社会人学生に最適なシステムを用意しています。

長期履修学生制度

仕事と学びを両立するため、標準修業年限を超えて課程を修了するような履修計画ができます。この長期履修学生制度を利用すると、標準修業年限分の授業料で年限を超えた計画的な履修が可能となります。

複数教員による指導

各学生に「主指導教員」「副指導教員」「副テーマ指導教員」という3人の教員がつき、教育・研究の指導に当たります。各専門分野の教員から、きめ細かい指導を受けます。

品川駅前が開講

JAIST iMOSTは、社会人学生が通学しやすい品川駅前にあります。社会人学生が仕事帰りに通学し、あなたが学びに専心できるような環境を用意しています。

社会人学生に最適な 入学・学修・研究の スケジュール

JAIST iMOSTへの入学は、社会人学生が仕事と調整しやすいように、年に2回（4月・10月）あります。また、長期履修学生制度を利用すると、標準修業年限分（2年分）の授業料で、4年を最長期間として履修することができます。

1年目			2年目					
10月入学 4月入学	1月 7月	6月 12月	9月 3月	10月 4月	2月 9月	6月 1月	8月 2月	9月 3月
	研究室配属	副テーマ研究開始	研究計画提案書提出	(主テーマ研究開始 修士論文)	修士論文中間審査	学位申請	修士論文審査会	修士号授与
		副テーマ研究		主テーマ研究				

入学試験の概要

JAIST iMOSTの入学者選抜は下記の要領で行います。
詳細については、[本学ホームページ \(トップページ→入学案内\)](#) または、[学生募集要項](#)をご覧ください。

● 選抜方法

面接の結果と提出された成績証明書等の書類に基づき総合判定します。面接時間は30分です。

面接内容は出願時に提出された小論文の口頭発表をいただき、その内容について試験官が試問します。

● 検定料 30,000円 ● 試験会場 東京

● 試験実施日程

	2014 (平成26) 年 10月 入学者選抜試験	2015 (平成27) 年 4月 入学者選抜試験
資格審査 ^{※注} 提出締切	2014 (平成26) 年 5月7日 (水) [当日消印有効]	2014 (平成26) 年 11月4日 (火) [当日消印有効]
出願期間	2014 (平成26) 年 6月18日 (水)～7月8日 (火)	2015 (平成27) 年 1月5日 (月)～20日 (火)
選抜期日	2014 (平成26) 年 8月2日 (土) / 3日 (日)	2015 (平成27) 年 2月14日 (土) / 15日 (日)
合格者発表	2014 (平成26) 年 8月22日 (金)	2015 (平成27) 年 2月27日 (金)
入学手続	2014 (平成26) 年 9月中旬	2015 (平成27) 年 3月中旬

※注 入学資格審査について: 大学を卒業していないなどにより、博士前期課程 (修士課程) の出願資格を満たしていない入学希望者について、その資格の審査を行います。

担当: 教育支援課入試係 (nyushi@jaist.ac.jp)

2014 (平成26) 年度 社会人コース特別選抜向け 大学院説明会について

JAIST iMOSTに興味のある方、学びたい方は大学院説明会にご参加ください。
説明会開催の詳細は右記までお問合せください。

入学案内

☎ 0761-51-1966

✉ nyugaku@jaist.ac.jp

2014年10月入学志望者向け 第1回 2014 5/18 SUN	2014年10月入学志望者向け 第2回 2014 5/24 SAT	2015年4月入学志望者向け 第1回 2014 12/6 SAT	2015年4月入学志望者向け 第2回 2014 12/14 SUN
--	--	---	--



国立大学法人
北陸先端科学技術大学院大学
東京サテライト

〒108-6019 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟19階

☎ 03-5460-0831 ☎ 03-5460-0832

✉ sate@jaist.ac.jp

🌐 <http://www.jaist.ac.jp/ks/imost/>

🚶 JR東海道本線・横須賀線・山手線・京浜東北線

JR東海道新幹線「品川駅」港南口 徒歩3分

京浜急行線「品川駅」高輪口 徒歩5分

